



技術史教育

第132号

2022.11.30

Electronic Journal for History of Technology Education

第132号 目次	日本技術史教育学会2022年度全国大会実行委員長挨拶	1
	日本技術史教育学会2022年度全国大会開催案内	(2)
	日本技術史教育学会2022年度全国大会会場案内	(3)
	2022年度「関西」部総会講演募集・編集後記	(4)

日本技術史教育学会2022年度全国大会実行委員長挨拶

全国大会開催にあたって

2022年度全国大会実行委員長

岡崎 昭二(神奈川県立神奈川工科大学)

2018年度に全国大会を開催して以降、2020年度から3年間コロナ禍で荒れ舞われています。状況を見て対面とオンラインを併用したハイブリッド方式で日本技術史教育学会2022年度全国大会が神奈川県厚木市で開催されることになりました。

さて、会場は江戸時代に大山詣で賑わった雄大な大山、同様に望みます。この大山について「大山」と記したいと思いきや

先日、NHKの大河ドラマ『鎌倉殿の13人』にて実朝が甥の公暁に託す第45話「八幡宮の階」が放映されました。実朝が大山の神を幻視して「永遠」という名づけがあります。

時よりすぐれば民のしきたり

此大に王冠やめたまへ

この名歌は寛政3年(1791)月、関東地方が大旱魃に見舞われた際、民の窮状を憂い、神仏の尊に向かつて祈念した歌だと言われています。美しい尖りて(ほ)が天を指す相模大山は、別名雨降山とも称し、古来より「雨の」天候を司る山として山岳崇拝の対象となっていました。

江戸時代の大山信仰は一種特別な崇敬として知られ、江戸市中の鳶屋商人は、太刀を担いで、登り道入り口近くの滝で身を清め、とうふ坂で買ってきた豆腐を喰いながら参道へと歩き出しました。参拝者は先ず、呼ばれる神職に導かれて、山にある大山利神社の主祭神を祭奉社を目指しました。先導師とは宿坊の主人であり、参拝者は登り道は宿坊に宿泊して翌朝に宿坊内の神殿にお参り交

けることが習慣であったようです。現在でも山麓には40軒程の宿泊並んでいます。宿泊では美しい和食料理が振舞われます。不思議と大山周辺では土質の関係から大木栽培は行われていません。一説には分導師が謝礼として大木を献上していたからだと言われています。なお、山麓の御霊は大山の麓、秦野市に眠っています。

開催中、秦野市では、須賀川追浜より疎開した国産ジェットエンジン2機の試運転が実施され、このことで感慨深いものがあります。なお、試運転時には、厚木から専門家が今流行る、産学連携が既に実施されていました。

会場となります神奈川県立神奈川工科大学は昭和63年に幾徳工業大学より改名、そのルーツは昭和38年に開校した、専修業高等専門学校に由来。当時日本には、専修業系統の学校が少なかったことから、小さい規模ながらも学ぶ者の数増を少なく、空気の良い所で心おきなく勉学に励めるようにと建学されました。「考え、行動する人材の育成」を建学の理念とし、教育理念は「学生本位主義」です。

これからは寒さも増しますが、皆さまと厚木の地(あるいは画面を通して)にてお会いできることを楽しみにしております。多数の方々のご来駕をお待ち申し上げます。

